

Qちゃん
市内に住む小学生



キュー

Qちゃんの、つぼくら先生！ 放射線のこと教えてコーナー

つぼくら先生
相馬中央病院医師
福島医大主任教授



市で行われている線量測定

Qちゃん 先生、原発事故から10年が経って、空間の放射線量がだいぶ下がってきているけど、相馬市ではどんな線量測定をしているの？

つぼくら先生 相馬市では、空間の放射線量を測るために、市内全域を四方に区切って測定するメッシュ調査をしていて、市内各地の空間の放射線量を年一回測定し、原発事故後の変化が分かるようにしているんだ。また、学校や公民館などの公共施設などには、モニタリングポストが設置されていて現在の線量が分かるね。【表】はモニタリングポストの測定値だけど、0.048～0.155μSv/h(毎時マイクロシーベルト)の値を示しているよ。県が原発事故前の平成22年度に県内13地点で測定した空間線量は0.02～0.14μSv/hの範囲だったから、市内の空間線量は、ほぼ原発事故前と同じくらいになったね。

Qちゃん そうなんだ。ここまで空間線量が下がっても、D-シャトルによる測定をしているのはなんですか？

●モニタリングポスト測定値の表

測定箇所	H24.4.1	R3.4.1
スポーツアリーナそうま	0.311	0.087
大野公民館	0.194	0.060
一般廃棄物埋立処分場	0.213	0.066
相馬地方広域水道企業団	0.163	0.066
蒲庭公会堂	0.23	0.075
玉野出張所	0.79	0.155
富沢公会堂前空き地	0.298	0.071
東部公民館	0.143	0.048
東玉野農業研修施設隣	0.69	0.083
飯豊公民館	0.163	0.050
さけふ化場(山上)	0.415	0.069
山上公民館	0.195	0.052
小倉公会堂	0.286	0.080
副霊山生活改善センター	0.766	0.103

つぼくら先生 D-シャトルは身に着けている人が浴びている放射線量を測ることができる器械だよ。空間線量が下がっても、一人一人の年間の被ばくは、生活環境や行動の違いで、家族でも違うことがあるんだ。Qちゃんは学校に通うけど、お父さんやお母さんも会社に行ったり、買い物に出かけたりするよね。それぞれの場所によって空間の放射線量が違うから、浴びる放射線量は一人一人違うんだ。

大切なことは自分が実際の生活でどのくらい被ばくしているかを継続して測り、確かめることだよ。また、昨年度にD-シャトルやホールボディカウンターの測定をした方には、相馬市から「外部・内部被ばく測定の結果」が届くので、こちらも確認してね。

Qちゃん 先生、ありがとう。今年もD-シャトルとホールボディカウンターの測定を続けるよ。

◎出典

▽原子力規制委員会ホームページ
(放射線モニタリング情報)



▽県ホームページ

(空間線量モニタリング情報)



今回Qちゃんが分かったこと

▽市内の空間線量は原発事故前と同じくらいにまで下がっていること。

▽実際の生活でどのくらい被ばくしているかを継続して確かめることが大切ということ。

●問い合わせ先 放射能対策室 (☎ 37-2270)

自家消費野菜などの 放射性物質測定結果

●4月分 ▼測定件数 1件

(内訳・山菜1件)

▽基準値を超えた食品 0件

●相馬市で出荷制限などを受

けている食品(5月1日現在)

▽クサソテツ(コゴミ)

▽タケノコ▽フキノトウ(野

生)▽ゼンマイ▽タラノメ(野

生)▽コシアブラ▽ウド(野

生)▽原木シイタケ(露地)

▽原木ナメコ(露地)▽キノ

コ(野生)▽クロソイ

※最新の情報は、県農林水産

物・加工食品モニタリング

情報ホームページ内の「出

荷制限等一覧」で確認くだ

さい。

◎これまでの食品の検査結果
(市ホームページ)

ホームページ
はこちら



ホームページ
はこちら



●問い合わせ先 放射能対策
室 (☎ 37 2 2 7 0)

皆さん受けましょう

個人積算線量計(D-シャトル) 外部被ばく線量測定

市は、市民の皆さんに外部被ばく線量を把握していただくため、D-シャトル(個人積算線量計)による測定を実施しています。

測定にかかる費用は無料なので、気軽に申し込みください。

- 対象者 測定を希望する市内在住の全市民
- 測定期間 2週間
- 申込期限 令和4年1月末
- 測定結果 測定結果の解析終了後に郵送します。
- 申込・問い合わせ先 放射能対策室(☎372270)

ホームページはこちら

外部被ばく線量測定



外部・内部被ばく線量

測定結果を送付します

市は、令和2年度に外部被ばく線量測定(D-シャトル)または内部被ばく線量測定(ホールボディカウンター)を受診した市民の皆さんへ、受診者の放射線量測定(平成23年度から令和2年度)の結果を取りまとめた「外部・内部被ばく線量測定の結果」を送付します。

これは原発事故の影響による

市は、令和2年度に外部被ばく線量測定(D-シャトル)または内部被ばく線量測定(ホールボディカウンター)を受診した市民の皆さんへ、受診者の放射線量測定(平成23年度から令和2年度)の結果を取りまとめた「外部・内部被ばく線量測定の結果」を送付します。

- お問い合わせ先 放射能対策室(☎372270)

外部被ばく線量測定結果について

外部被ばくは、体の外に放射線が当たって、そこから吸収することです。平成23年度以降、あなたが相馬市において測定した外部被ばく線量の測定結果は以下のとおりです。

測定年度	測定方法	年間追加被ばく線量 (mSv)	備考
平成23	ガラスバッジ	—	
平成24	ガラスバッジ	—	
平成25	ガラスバッジ	0.000	
平成26	ガラスバッジ	0.400	
平成27	D-シャトル	0.000	
平成28	D-シャトル	0.085	
平成29	D-シャトル	0.002	
令和4(予定)	D-シャトル	0.006	

測定方法

●ガラスバッジ 個人積算線量計として、身体部に装着し、放射線を吸収して測定します。測定期間は2週間です。

●D-シャトル 個人積算線量計として、ガラスバッジ同様、身体部に装着し、その間に被ばくした線量を測定します。測定期間は2週間です。測定結果は1週間ごとに被ばく線量を確認できます。

測定方法の経過

市による外部被ばく線量測定は、平成23年度から平成27年度まで、平成28年度以降は令和4年度まで実施しています。平成28年度からは、測定結果は1週間ごとに被ばく線量を確認できます。

単位

millisievert (mSv) 人が受ける放射線被ばく線量の単位です。

年間追加被ばく線量

市は、原発事故による放射線被ばくによる年間追加被ばく線量(年間追加被ばく線量)を算出しています。

サンプル

健康ポイント事業

市は、毎日運動をすることや特定健診などを受診することによってポイントを集める「いきいきそうま健康ポイント事業」を実施します。

- 対象者 市内在住の18歳以上の方
- 実施期間 6月1日(火)～令和4年3月1日(火)
- 参加方法
 - ①保健センター、市役所1階保険年金課または市役所1階放射能対策室でポイントを入する台紙を受け取る。
 - ②日々の健康活動を台紙に記入し、ポイントをためる。
 - ③ポイントの基準を達成し、保健センターでカードとプレゼント応募はがきを受け取る。
- 問い合わせ先 保健センター(☎354477)

紙類を分別し資源として有効活用しよう

ごみの減量・リサイクルのため、下記のとおり分別し、ひもで十字に縛り紙類の日に捨てましょう。

- ▽『紙マーク』のついている紙製容器包装(ティッシュ、お菓子の箱、包装紙)▽牛乳、ジュースなどの紙パック(洗って乾かす)▽新聞紙▽雑誌▽段ボール

※下記の事項に該当する紙類は、燃えるごみの日に捨ててください。

- ▽汚れが取れないもの▽防水、アルミ加工がされたもの▽写真・フィルム・ナイロン

●問い合わせ先 生活環境課 (☎37-2143)

